

はじめに

本書は、2015 年度より 2017 年度まで日本学術振興会科学研究費助成事業の支援を得て推進した基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究 (Comprehensive Study of Cross-linguistic Proficiency Evaluation Methods with special consideration for the socio-cultural diversity of Asian Languages)」(研究代表者富盛伸夫、研究課題/領域番号 15H03224)の研究成果として刊行しました。

本課題研究では、EU の言語教育改革の中核をなす CEFR (Common European Framework of Reference for Languages「ヨーロッパ共通言語参照枠組み」) が EU 域内のみならず日本を含む世界各地に導入されつつある現在、特に我が国と近い関係にあるアジア諸国での受容様態と実績を調査し、CEFR の導入にかかわる問題点と改善点の検討について焦点をあてています。本研究プロジェクトは、東京外国語大学語学研究所を拠点にして遂行した 3 つの先行する基礎的研究の上になるものです。まず、2006 年度より基盤研究(B) 課題研究「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」(3 年間、代表者富盛伸夫) および、続く 2009 年度より基盤研究(B) 課題研究「EU および日本の高等教育機関における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究」(3 年間、代表者富盛伸夫) では、EU 参加各国での現地調査をととしてその理念と実施面での整合性などを調査しました。その問題意識を継承し対象の展開をはかった研究として、2012 年度より基盤研究(B) 課題研究「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」(3 年間、代表者富盛伸夫) を遂行し、アジア諸国への CEFR の浸透度と通言語的枠組みの有効性を考察しました。このような活動基盤の上に、本プロジェクトは日本語教育からペルシア語教育まで 15 名以上の分担者・協力者の協力を得て国内外の調査及び実践的な研究を続けています。研究成果は国際ワークショップ等の開催をはじめ、海外発表や国内研究会を重ねて発信してきましたが、本書はその一部を紙媒体で成果発表するものです。

(東京外国語大学語学研究所のホームページ内にリンクされている協働科研のサイトに同様の内容を掲載しているのであわせてご覧いただければ幸いです。

(<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/site0008/index.html>)

本科研は、CEFR が日本をはじめ非ヨーロッパ世界にも拡大適用されようとする潮流の中で、いわば EU ローカルの言語能力参照枠組みの再検証を行ない、特にアジア諸語の言語的特性や社会・文化的特質を考慮した適用可能性と方策の開発をめざしました。研究展望としては、CEFR の基本的理念を参照しつつ、複言語使用状況を前提にした言語行動における異言語・異文化間コミュニケーション能力の再概念化を試み、さらには CEFR に向き合うことにより人間社会の営為としての言語教育の本質的意味に改めて環流する予感がします。

最後に、研究拠点としても多大な便宜を図っていただいた東京外国語大学語学研究所と、研究補助や編集作業に尽力していただいた東京外国語大学語学研究所事務補佐の深尾啓子さん、東京外国語大学大学院総合国際学研究科学生 YI Yeong-il さん、トゥザ ラインさんに深く御礼申し上げます。

2018 年 3 月

研究代表者 富盛伸夫 (東京外国語大学)